

2009 年ラツパを吹き鳴らす祭り 第一部

2009 年 9 月 13 日 アシェル・イントレーター

イスラエルにあるメシニック・コングリゲーションは、今週イエシュアの主権の元集まり、ラツパを吹き鳴らす祭りを行います。モーセの律法はこの祭りを祝うように命じていますが、ラツパ(角笛)のすべての意味を明らかにしていません。

レビ記 23:24「イスラエル人に告げて言え。第七月の第一日は、あなたがたの全き休みの日、ラツパを吹き鳴らして記念する聖なる会合である。」

エリコの戦いでラツパの意味についてヒントが与えられていますが(ヨシュア 6 章)、完全な意味は黙示録の7つのラツパにおいて明らかにされています。黙示録の7つのラツパはラツパを吹き鳴らす祭りの預言的なメッセージを述べています。

ラツパを吹き鳴らす祭りを理解する鍵となるのは黙示録のラツパであり、黙示録のラツパを理解する鍵となるのはラツパを吹き鳴らす祭りです。イエシュアの十字架が過越の祭りにつながっているように、聖霊のそそぎが七週の祭り(訳注:ペンテコステ)につながっているように、艱難の裁きはラツパを吹き鳴らす祭りにつながっています。

レビ族の祭司職は神のしるしを私たちに教え、その預言的な意味は新しい契約(訳注:新約聖書のこと)に現れています。そのしるしそのものを理解しなければ、預言的な意味を理解することは不可能です。

申命記 29:29「隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし、現されたことは、永遠に、私たちと私たちの子孫のものであり(後略)」

トラー(訳注:モーセ五書)に部分的に現れているものは、黙示録に完全に現れています。根と実はずながつながっているのです。主が隠されているものは、黙示録によって天が開かれるまで徐々に現わされるのです。

黙示録 1:1「イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。(後略)」

七人の御使いに七つのラツパが渡され、第七月のラツパを吹き鳴らす祭りにおいて、七つの教会に対してラツパが吹き鳴らされるのです。ラツパを吹き鳴らす祭りの聖書的な枠組みは七つのラツパです。それは、王なるメシアの再臨へと至る、終わりの時の裁きと艱難を表しています。

黙示録 8:6「七つのラツパを持っていた七人の御使いはラツパを吹く用意をした。」

それぞれのラッパは、神のご計画の啓示を段階的に現していきます。それぞれのラッパが吹き鳴らされ、啓示があり、同時に裁きが下されます。地上でラッパを吹き鳴らされるのと、天で吹き鳴らされるのとは一致しています。七つ目のラッパは、神の啓示の第七回目であり、最終章です。

黙示録 10:7「第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおり成就する。」

ラッパや艱難と共に、神の奥義の宣言が伴います。これらの啓示を宣言するために、イスラエルにいるメシアニック・レムナント（訳注:「残りの者」であるメシアニック・ジュー）が預言者としての役割を果たすと私は信じています。私たちはレビ的なしるしを保持してきたイスラエルの義の共同体と霊に満たされた諸国の教会とをつなぐ者であり、終わりの時の預言的な啓示を待つ者です。

黙示録 11:1「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二ヶ月の間踏みにじる。」

この驚くべき預言は、半分良いこと、半分悪いことを説明しています。時が来て（恐らく七年間の艱難期の最初の半分）、その間国際的な統治を行う同盟組織が神殿の丘を管理し、そこをユダヤ人の神殿も含め、様々な宗教のセンターとします。エルサレムは正統派ユダヤ教徒によって管理が強化されつつあり、エルサレムに対して国際的な、政治的な興味も増しており、そのようなシナリオはそれほど遠い将来のことではありません。

マドンナが最近ここ（訳注:イスラエル）に来ましたが、その時彼女は、イスラエルは世界の「霊的なエネルギー」の中心だと主張しました。奇妙なことですが、それはイゼベルの霊による女祭司の一人からの「正しい」預言でした。

今年イスラエルは契約の価値を代表する事実上唯一の国となりました。ジョージ・W・ブッシュ氏がアメリカの大統領であった時、彼は契約について語り、イスラエルの首相であったエフード・オルメルト氏はそう語りませんでした。現在、オバマ米大統領は契約について語りませんが、イスラエルのネタニヤフ首相はそう語りました。私たちは黙示録が語る時代に入りつつあるのです。時はすぐそこまで迫っています。

7つ目のラッパはイエシュアの再臨前の、神のご計画の最後の啓示をもたらします。イエシュアが再臨し地球の支配権やすべての権威体制を取ります。最後のラッパの啓示はまさしくそのことについて表しているのです。

黙示録 11:15「第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると天に大きな声々が起こって言った。『この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。』」

ここ地上でラッパは吹き鳴らされ、天でも吹き鳴らされます。それには天からのメッセージが伴います。聞く耳を持つ者は誰でも地上のラッパの音を聞きます。霊的な耳を持つ者は誰でもそれに伴う天からのメッセージを聞きます。

神は角笛を吹き鳴らすだけの私たちメシアニックジューを必要としていません。主は私たちに対して、主の御声を聞き、主の預言的なメッセージを宣言してもらいたいと望んでおられます。御国の福音は単なる火災保険(地獄に行かないための)やヘリコプターの搭乗券(天に行くための)ではありません。それは、この地上の所有権の譲渡に関わることです。それは、政治的な権威の声明書なのです。

神から、この地上を委任統治することを、ダビデ王を通して契約によってイスラエルに与えられました。ダビデのさらに偉大な子はダビデのさらに偉大な王国を支配するために再臨し、主は私たちが共に支配することを望んでおられます。イスラエルのメシアニック・レムナントはその預言的な役割を担い、その御国が来ることを宣言します。もし私たちがへりくだって忠実であるならば、主はこれらのメッセージを伝えるためのメティアの機材を提供して下さいます。私たちに聞くことのできる耳を、理解する心を、そして宣言する大胆さを与えて下さいますように。